

1位:東京86万人、2位:神奈川30万人、3位:大阪7万人、4位:長崎6万人

5位:兵庫6万人、6位:福岡5万人（千の位を四捨五入）

（旧・新教、東方教会、異端、名目的信者を含む数字ですが、東京集中傾向は読み取れます）



MB 伝道フォーラムのご案内

今日、日本は伝道困難な時代であると言われてきましたが、福音宣教に多くの実を得ているミニストリーや教会があるのも事実です。何よりも、これからの宣教を担っていく若者が熱く燃やされることに大きな力があると確信します。

今回のフォーラムは、若者たちがキリストと共に生きることに魅力を感じ、自分たちも宣教の働きに何らかのかたちで加わりたいと思えるようなものとなることを願っています。

日時：2019年2月2日(土) 午前10時～午後3時
 会場：MB 宣教センター
 主催：MB 伝道委員会
 参加費：無料 昼食は各自
 対象：主に用いられたいと願うすべての世代

午前中は、イスラエル最大のヘブライ語を話すCongregation(教会)である、テルアビブのティフェレット・イエシュアで副牧師をしているデービット・トゥルーベック牧師をお迎えして、同胞に対する熱い宣教の思いと、宣教の実践を語っていただきます。イスラエルと日本では文化と背景は違いますが、キリスト教への強い偏見の中で、さまざま知恵を神から受けて取り組まれている姿は励ましとなります。

また、日本にも重荷を持たれ、2020年より日本におけるユダヤ人宣教と日本人宣教のために働きをなされます。

午後は、MBの若者に福音宣教の働きに関わっている体験を報告していただきます。具体的な直接伝道の働きや、関係作り伝道の働きなど若者が神様に用いられている状況を分かち合います。

*申込/ お問い合わせ：0725-46-8113(fax 兼用) tabaizm1@cotton.ocn.ne.jp(田畑)

記載事項：名前・出席教会・連絡先

締め切り：2019年1月27日(日)

【編集後記】 皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋3丁目7-15 TEL:072-762-5731

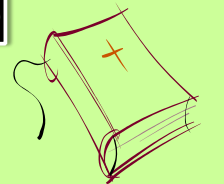
発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)

伝道ニュース 《特別号》



田中芳文師：教団議長
(星田チャペル)

開拓伝道のビジョンを語る【14】



「キリストの証人として生きる」

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」(使徒の働き 1章8節)

「開拓伝道のビジョンを語る」というテーマをいただきましたが、私自身として、「伝道」とは何かを考えてみました。

巻頭の御言葉にあるように、私たちはこの世界にあって「キリストの証人」として生きるように召されています。それは、イエス様が天に帰って行かれた後、約束の聖霊が弟子たちの上に降り、地の果てまで「キリストの証人」として派遣されてから始まりました。それから、約二千年。私たちもまた、「キリストの証人」としてこの世界に遣わされています。

ここ星田に来てから約10年になりますが、当初この地域とどのように関わったらよいかと随分悩みました。まず初めにしたのが小学校のPTA会長を引き受けることでした。その後、中学校のPTA会長、幼稚園の保護者会代表、そして、今は民生児童委員をしています。また、毎朝、子供たちの交通安全のために見守りを続けています。このPTA活動や見守りを通して地域の多くの人と知り合いになり、その中で分かってきたことがありました。ほとんどの人が教会の存在(所在)を知っているものの、訪れる人がほとんどいないということです。「なぜ?」「どうして?」と疑問に思い、直接尋ねましたら、答えは意外と簡単なものでした。「顔が見えない」からでした。すなわち、「知り合いがない」「どのような人がいるかわからない」からでした。それからというもの、「顔の見える教会」をめざしておもいきり「牧師」という看板を前面に出しながら歩んできました。その結果、教会に来る人が増えたわけではありませんが、「田中さんの教会」ということだけは確かに浸透し、少しずつ「顔の見える教会」になってきました。そのひとつが、私が民生児童委員に推薦されたことでした。地域の方に私自身のことが、そして、教会の存在を知っていただいていたからだと思います。

「キリストの証人として生きる」とはどのようなことかと長年考えてきました。一人でも多くの方々に、イエス様のことを知ってもらい、何よりもイエス様と共に歩む人生を選択して欲しいと願ってきました。そのために、まず地域の方と知り合いになることから始めてきましたが、なかなか前に進みません。関係作りには時間がかかります。「顔の見える教会」になるためには、まず私たちクリスチャンを知っていただくことから始まり、私たちがイエス様と共に生きることを喜び、それと同じように、他の人とも生きることが問われます。出会う方々を神様が与えてくださった恵みだと受けとめることです。そのような私たちを通して、イエス様を知ってもらったその先に、「キリストの証人として生きる」道があるのだと思います。いつも共にいて、私たちの人生と一緒に歩んでくださる方がおられることを知っているの、「キリストの証人として生きる」ことができるのです。

日本 MB 宣教を思う

武庫川キリスト教会 武田信嗣牧師



私はMB宣教最初の頃の牧師の子としてMBで生まれ育ち60年になります。ですから、私の位置から日本宣教について思うことをつらつらと書かせてください。

1950年代前半

日本MBが関西発であったことは神の深いご摂理でした。MCCのティルマン師が横浜に入港できず、神戸に入港し、京都のホテルに滞在するなかで、国鉄大阪で「イエス団」の吉田氏と出会うなかで、MCC戦後救済活動が此花区春日出で開始されました。その後、MBの宣教師館が池田市荘園に設置されるなかで、MBとしての最初の礼拝が池田で開始されていったのです。関西初のこの物語は大切にしたいです。

☆1950年代後半（宣教師会議で宣教領域を関西に限定、福音放送、神学校開設）

初期宣教師たちのビジョンはシンプルでした。福音ラジオ放送を聴いて中之島公会堂での「賛美とメッセージの夕べ」に集まった人たちを関西の鉄道沿線に教会堂を建てることによって導くというものでした。宣教師たちの熱意が太平洋放送協会との連携を生み、当時の関西の戦後福音派中堅教会をリードできたのです。宣教師たちはまた、神学校を優先的に作り、フリーチャーチ系超教派神学校も作り、キャンプ場も購入しました。現在もビジョン通りに鉄道沿線に建てられた教会は、今もなおある程度のバランスが保たれています。ある程度・・・（2016年度）

西部地区・5教会、教会員数 327人、平均礼拝出席者数 244人

豊能地区・2教会、教会員数 400人、平均礼拝出席者数 253人

東部地区・4教会、教会員数 178人、平均礼拝出席者数 109人

南海地区・4教会、教会員数 224人、平均礼拝出席者数 153人

北部地区・5教会、教会員数 280人、平均礼拝出席者数 185人

東海地区・6教会、教会員数 227人、平均礼拝出席者数 175人

中国地区・3教会、教会員数 115人、平均礼拝出席者数 68人

☆1970年代

1970年頃から教団は大きな変化を経験します。メインラインの教団ほどの衝撃的経験はしませんでした。私たちの場合は、ラジオ放送を近畿放送伝道協力会に手渡し、超教派神学校も終了し、中之島公会堂中心活動も終了させ、初期宣教師たちは、地方開拓（中国・東海）に分散していきました。また諸教会は北米からの教会成長論を導入し、それまでの教団全体が一つの教会のようであった時代から、諸教会が独自のアイデアで成長を願う教団へとシフトしていきました。1974年-1983年には、第一次伝道10カ年計画がなされ、結果的

に活会員2.5倍を目標としたが2倍に止まりました。しかし、確かにあの頃がMB教団の輝ける急成長の時代でした。

☆1980年代

1980年頃、青年委員会ではユースクルセードを企画しましたが、すでに諸教会は、一つの場所に集まって伝道集会を開く時代ではなくなっていました。それで青年委員会は情報基地として広報活動に切り替え、機関紙「クルコム」を発行しました。MBは教会成長論の影響で、すでに各個教会でがんばる時代に突入していたのです。

☆1990年代

さて1990年頃になると、初代宣教師ルースウインズ師の帰国、フリーゼン師ご夫妻の帰国により、神学面でも新しい時代を迎え、また教団名メノナイト・プレザレによる「アナバプティズム（再洗礼派）アイデンティティ」への回帰意識が広がっていきます。1998年のMB聖会講師からの「日本のMBは昔の北米MBのままです」との言葉に一応にショック?を受け、この頃から、再確認の時代が始まりました。一方教団外（福音派内）では、福音派諸教会内で様々な賛美運動、聖霊運動が盛んになり、分断が生じたのもこの時期でした。確かに、1995年のオウム事件は宗教界全体に暗雲をもたらし、何か伝道状況が以前のように感じられないようになりました。

☆2000年以降

2000年頃から、MBの若い牧師たちが北米のMB神学校に留学し、神学分野ではMB独自の神学を求めようになりました。2000年にはMB宣教50周年が開催され、教団の教勢は最高潮に達していましたが、そのあとは微減が続いています。そのようななか、世界のMBでも様々な変化が生じ、1990年末にはICOMBの働きが始まり、「ICOMB信仰告白」も発行され、これからは北米が中心ではない、各国の協議会は、お互いに横の関係なんだよということをよく聞くようになりました。

☆2018年以降

SNS・AI・人口減少・東京集中・移民流入・日本社会の保守化

さて、これからは、SNSの時代が進み、家で礼拝できる時代が来るかもしれません。しかし人々は本物の共同体を求めます。そうはなりません。AI時代には、説教もロボットがするのでしょうか（笑い）。そうはなりません。人々は「さらに優れた故郷」を目指す前味わいの故郷として、教会を求めます。また東京集中問題ですが、下記の統計によると、信者数も東京集中的になってきているようです。私たち関西発の教団としては、東京発とは違う発想を頂きたいものです。また世界的に移民流入が課題となる時代となるでしょうが、もしそうなる、きっと移民のクリスチャンたちから我々の発想とは違うアイデアの提供して下さることを期待したいものです。またその反動として保守化、右傾化が進むならば、私たち教会は、何も古い価値観とか新しい価値観の選択者ではなく、また外来の価値観と日本古来の価値観の選択者ではなく、大胆に神さまから頂く価値観（シャローム）を示し続ける教会であることを目指すことになるでしょう。今、教団では、宣教100周年に向けての青写真を描こうとしています。楽しみです。